

# アニマルアクティビティ

## (授業概要)

アニマルセラピーやアニマルアクティビティの現状とセラピードッグの育成に関する適性飼育と必要な条件を学び、ボランティアや教育、介護などで活躍できる人材の育成を行う。

科	生命科学科	教員	荻野 直美
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36

## 目標

### 1 学期

アニマルセラピーを通じて、ペット動物に対する意識の向上

動物介在活動の普及・ボランティアの育成

### 2 学期

動物介在活動の実践と動物を飼い暮らすことの大切さと難しさを伝えられるようになる。

(動物の適性飼育の重要性)

## 授業計画

### 1 学期

- 1回 自己紹介、アニマルセラピーとは
- 2回 AAA・AAT・AAE 概要
- 3回 AAT を行うためには
- 4回 動物がもたらす効果
- 5回 AAT を行う側からの分類①
- 6回 AAT を行う側からの分類②
- 7回 AAT を受ける側からの分類
- 8回 AAT を行う上での動物のストレス①
- 9回 AAT を行う上での動物のストレス②
- 10回 動物の適性評価①
- 11回 動物の適性評価②
- 12回 テスト (筆記)
- 13回 テスト (解答) 前期まとめ
- 14回 活動中のストレス要因

### 2 学期

- 15回 患者に合った動物を選ぶ
- 16回 AAT の適応に注意が必要な場合
- 17回 動物への不適切な扱い

18回	捨てず・増やさず・飼うなら一生①
19回	捨てず・増やさず・飼うなら一生②
20回	グループワーク
21回	活動に参加する動物のチェック
22回	活動に際しての注意点
23回	活動当日の注意点 デモンストレーション
24回	ボランティアの責任
25回	施設と設定
26回	動物を飼う「食事編」
27回	動物を飼う「環境編」
28回	動物を飼う「体の手入れ編」
29回	動物を飼う「運動編」
30回	動物を飼う「予防編」
31回	動物を飼う「トレーニング編」
32回	動物を飼う「愛情・絆編」
33回	後期ノートチェック、テスト範囲まとめ
34回	テスト（筆記）
35回	テスト（解答）
36回	後期締め授業 全体ミーティング

<small>じゅぎょう ほうほう</small> 授業の方法
講義、演習、グループワーク

<small>きょうざい</small> 教材
ノートプリント配布 1～23、その他環境省の配布ポスター

<small>ひょうか ほうほう</small> 評価の方法
<small>きまつしけん</small> 期末試験80%、出席率 20%

<small>じゅぎょうがい がくしゅうほうほう</small> 授業外での学習方法
なし

<small>けいけん じゅぎょうか もく かんけい</small> 経験と授業科目の関係
あり

# エキゾチックアニマル I

## (授業概要)

エキゾチックアニマルを扱う仕事（動物園、水族館、ペットショップ等）をする上で必要な知識を身につけるために、主要な5種類（ハムスター、モルモット、ウサギ、フェレット、チンチラ）のペット動物の分類や生態、特性を理解し、小動物を正しく扱えるようになる。

科	動物看護師学科	教員	橋本
コース	動物看護師コース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36

## 目標

### 1学期

ハムスター・ウサギの生態や歴史、飼育時の注意点、病気メカニズムや症状などを理解し説明できるようになる

### 2学期

フェレット・モルモット・チンチラの生態や歴史、飼育時の注意点、病気のメカニズムや症状などを理解し説明できるようになる

## 授業計画

### 1学期

- 1回 エキゾチックアニマルとは
- 2回 ペットの適性
- 3回 ハムスターについて（分類、歴史）
- 4回 ハムスターについて（体の特徴）
- 5回 ハムスターについて（フード用品）
- 6回 ハムスターについて（病気）
- 7回 ウサギについて（分類、歴史）
- 8回 ウサギについて（体の特徴）
- 9回 ウサギについて（フード用品）
- 10回 ウサギについて（病気）
- 11回 前期復習
- 12回 前期試験
- 13回 前期試験返し・解答
- 14回 ハムスター振り返り（グループワーク：グループ分けし、課題を与えてプレゼン）
- 15回 ウサギ振り返り（グループワーク：グループ分けし、課題を与えてプレゼン）

### 2学期

- 16回 モルモットについて（分類、歴史）

- 17回 モルモットについて（体の特徴）
- 18回 モルモットについて（フード用品）
- 19回 モルモットについて（病気①）
- 20回 モルモットについて（病気②）
- 21回 フェレットについて（分類、歴史）
- 22回 フェレットについて（体の特徴）
- 23回 フェレットについて（フード用品）
- 24回 フェレットについて（病気①）
- 25回 フェレットについて（病気②）
- 26回 チンチラについて（分類、歴史）
- 27回 チンチラについて（体の特徴）
- 28回 チンチラについて（フード用品）
- 29回 チンチラについて（病気）
- 30回 モルモット振り返り（グループワーク：グループ分けし、課題を与えてプレゼン）
- 31回 フェレット振り返り（グループワーク：グループ分けし、課題を与えてプレゼン）
- 32回 チンチラ振り返り（グループワーク：グループ分けし、課題を与えてプレゼン）
- 33回 後期復習
- 34回 後期試験
- 35回 後期試験返し・解答
- 36回 課題

授業の方法

講義、グループワーク

教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自まとめなおし、随時チェックする。

実務経験と授業科目の関係

あり



# グルーミング概論・実習Ⅰ

## (授業概要)

シャンプー犬種のグルーミングの意義を理解し、実際に犬の爪切り、バリカン、耳掃除、ブラッシング、シャンプー、ドライイング、足回りカットを行い、犬の保定の仕方や犬の扱い方の基礎を学ぶ。学生同士協力しスムーズに実習を行うことが出来るようにコミュニケーション能力を身に付ける。

科	生命科学科	教員	白瀬 貴子
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36×7時間

## 目標

### 1学期

チワワ・ダックスフンド等のシャンプー犬に実際にグルーミング（爪切り・耳掃除・バリカン・ブラッシング・シャンプー・ドライイング）を行う上で、犬に負担がかからないように仕上げる事が出来るようになる  
グルーミングを行いながら犬の扱い方・保定の仕方を身に付ける

### 2学期

1頭の犬に対するグルーミングの一つ一つの作業を丁寧に行えるようにする  
時間も意識しながら仕上がりを綺麗にする

## 授業計画

### 1学期

- 1回 道具配布・座学（グルーミングとは～コーミング）
- 2回 座学（耳掃除～道具による怪我）
- 3回 座学（ハサミについて～実習の諸注意）
- 4回 座学（実習室案内～リボン作成）
- 5回 モデルグルーミング
- 6回 グルーミング実習（初実習・3人で1頭）
- 7回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 8回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 9回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 10回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 11回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 12回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 13回 グルーミング実習（3人で1頭）
- 14回 グルーミング実習（3人で1頭）

### 2学期

- 15回 グルーミング実習（2～3人で1頭）

- 16回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 17回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 18回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 19回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 20回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 21回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 22回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 23回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 24回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 25回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 26回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 27回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 28回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 29回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 30回 グルーミング実習 (1～2人で1頭)
- 31回 グルーミング実習 (1～2人で1頭)
- 32回 グルーミング実習 (1～2人で1頭)
- 33回 グルーミング実習 (1～2人で1頭)
- 34回 グルーミング実習 (1～2人で1頭)
- 35回 グルーミング実習 (1～2人で1頭)
- 36回 グルーミング実習 (1～2人で1頭)

じゅぎょう ほうほう  
授業の方法

実技実習・講義

きょうざい  
教材

グルーミング用品・講義プリント

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

ハサミの動かし方を自宅で練習する

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

あり

# コンパニオンキャット I

## (授業概要)

ペットに関わる職業（トリマー、ペットショップ、動物保護、動物看護師）を目指すうえでしておくべき猫の基礎知識について、種類や歴史、身体の特徴、繁殖、病気を中心に全般的な知識を習得する。

科	生命科学科	教員	上田阿由美
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36時間

## 目標

### 1学期

猫についての基本的な知識を知るとともに、猫と犬の違いを学ぶ。また、猫の行動学も学び、理解をし、説明できるようになる。

### 2学期

猫種、仔猫の健康チェック方法、ケアーの仕方、伝染病などの猫の病気を学び、それらを人に伝えられるようになる。

## 授業計画

### 1学期

- 1回 オリエンテーション（授業のルール・評価の出し方。）上田の自己紹介
- 2回 プロのMIXと純血種の定義
- 3回 LH/SHの性格。遺伝等の違い
- 4回 アメリカンショートヘアーについて
- 5回 MALE/FEMALEの性格等の違い
- 6回 猫と犬の違い①（習性・体型・感触）
- 7回 猫と犬の違い②（運動感覚・体臭・排泄物）
- 8回 猫と犬の違い③（種類・腸管・歯・毛色）
- 9回 猫と犬の違い④（繁殖機能）
- 10回 行動学①（舌・爪・尾）
- 11回 前期末テスト
- 12回 前期末テスト答え合わせ&不理解部分の説明
- 13回 行動学②（髭・鼻・目・耳）
- 14回 行動学③（内臓・皮膚・体感・マタタビ）

### 2学期

- 15回 CFA公認猫種のDVD①
- 16回 CFA公認猫種のDVD②
- 17回 猫のタイプによる分類

- 18回 猫のカラーによる分類
- 19回 子猫の健康チェック①
- 20回 子猫の健康チェック②
- 21回 子猫の健康チェック③
- 22回 毎日のケア①
- 23回 毎日のケア②
- 24回 毎日のケア③
- 25回 ワクチンについて①
- 26回 ワクチンについて②
- 27回 ワクチンについて③
- 28回 猫の病気①
- 29回 猫の病気②
- 30回 猫の病気③
- 31回 猫の血液型①
- 32回 猫の血液型②
- 33回 猫の血液型③（FNI）
- 34回 後期末テスト
- 35回 後期末テストの答え合わせ&不理解部分の説明
- 36回 総復習

じゅぎょう ほうほう  
授業の方法

講義

きょうざい  
教材

CFA猫種 スタンダード訳本

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん  
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

猫の健康チェックやケアを実際に猫でやってみる

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

あり

# コンパニオンドッグ I

## (授業概要)

犬に関わる職業において必要な犬種ごとの特徴や対応を学び、犬を理解するとともに、将来の仕事において、お客様への情報提供やサービス、接客にて役立つ知識として学ぶ。また、実習において基礎知識を応用し、実際に犬と関わるうえで犬の扱い方、対応を実践としてつなげる。

科	生命科学科	教員	稲岡 愛
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36時間

## 目標

### 1 学期

主要犬種の J K C でのグループ分け、犬種の外観、性格、歴史、飼育環境、健康管理、行動特性などを学び外観を見て犬種名、犬種の特徴を説明できるようになる

### 2 学期

主要以外の人気犬種の J K C でのグループ分け、犬種の外観、性格、歴史、飼育環境、健康管理、行動特性などを学び、外観を見て犬種名、犬種の特徴を説明できるようになる

## 授業計画

### 1 学期

- 1回 授業の説明、グループ分け①
- 2回 グループ分け②
- 3回 グループ分け③
- 4回 グループ分け④
- 5回 グループ分け⑤
- 6回 人気犬種 2 種 (プードルなど)
- 7回 人気犬種 2 種 (ダックスフンドなど)
- 8回 人気犬種 2 種 (柴など)
- 9回 人気犬種 2 種 (M シュナウザーなど)
- 10回 試験対策
- 11回 試験
- 12回 期末試験フィードバック
- 13回 人気犬種 2 種 (マルチーズなど)
- 14回 人気犬種 2~3 種 (フレンチブルドッグなど)

### 2 学期

- 15回 人気犬種 2 種 (パグなど)
- 16回 人気犬種 2~3 種 (L レトリバーなど)

- 17回 人気犬種 2～3種 (ビーグルなど)
- 18回 人気犬種 2～3種 (ブルドッグなど)
- 19回 人気犬種 2～3種 (ボストン・テリアなど)
- 20回 人気犬種 2～3種 (ブル・ドッグなど)
- 21回 人気犬種 2～3種 (シベリアン・ハスキーなど)
- 22回 人気犬種 2～3種 (ドーベルマンなど)
- 23回 人気犬種 2～3種 (Gシェパードなど)
- 24回 人気犬種 2～3種 (サモエドなど)
- 25回 人気犬種 2～3種 (チャウ・チャウなど)
- 26回 人気犬種 2～3種 (ニューファンドランドなど)
- 27回 人気犬種 2～3種 (Mブル・テリアなど)
- 28回 人気犬種 2～3種 (アイリッシュ・セターなど)
- 29回 人気犬種 2～3種 (ケアン・テリアなど)
- 30回 人気犬種 2～3種 (Eスプリンガー・スパニエルなど)
- 31回 試験対策
- 32回 試験
- 33回 試験フィードバック
- 34回 前期復習
- 35回 後期復習
- 36回 総復習

じゅぎょう ほうほう  
授業の方法

講義

きょうざい  
教材

いちばんよくわかる犬種大図鑑

ひょうか ほうほう  
評価の方法

期末試験 80% 授業態度、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

授業前に事前学習として対象の犬種の様々な画像を見ておく

日常生活で犬を見たら犬種名を言えるようにする（わからない場合は調べるもしくは飼い主に確認）

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

あり

# コンピュータ実習

## (授業概要)

動物に関わる全ての職業に共通したP Cスキル (Word 基礎、Excel 基礎、PowerPoint 基礎を学びレポート作成及び表計算の基礎と応用) を修得できる。

科	生命科学科	教員	林
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	×
対象年次	1年	年間単位時間	36

## 目標

### 1 学期

レポート及び報告書を作成できるようになり、レポートを指定したフォーマットに自分で設定して作成する事が出来るようになる。

### 2 学期

表計算とグラフ機能を使用して実績等をまとめる事が出来るようになる。

プレゼンテーションの基礎としてアニメーションを組み込んだ発表を出来る様になる。

Excel において効果的に関数を利用した表を作成出来るようになる。

## 授業計画

### 1 学期

1回 PC 基礎操作及び授業内容の説明。Google スプレッドシートを軸とした情報共有作業の基礎。

2回 クラウドとローカル両方での保存領域確保。PC スキルチェックテスト。

3回 成績判定について。

4回 アプリ起動方法・Word 画面説明、文字入力、フォントサイズ変更、クラウド保存領域への別名保存。成績評価における提出物保存先の説明と確認。

5回 クラウドからの授業資料ダウンロード、ローカル保存領域への別名保存。授業資料へ画像の挿入及び編集。文章のコピー・貼り付け、揃え。箇条書き設定。

6回 あいさつ文活用法、ビジネス文書課題作成。教科書 P51 から特定の文章のみ変更。

7回 表の挿入、行列の幅変更、セル結合・セル書式設定、段落罫線の設定。

8回 表を利用した文書課題作成、教科書 P98 から特定の文章のみ変更。

9回 ペイントを使用した画面のスクリーンショット、画像編集。挿入した画像と文章の折り返し設定。写真のサイズ・スタイル変更。

10回 前期試験についての説明、テスト対策。

11回 Excel 画面説明、文字入力・データの修正、オートフィルの利用、罫線の使い方、四則演算数式の利用。

12回 SUM・AVERAGE 関数の利用。スプレッドシート上での SUM・AVERAGE 関数の利用。

13回 長期休みと SNS。ネット炎上から見る個人情報管理と情報発信について。

## 2学期

- 14回 絶対参照、数値の表示設定(桁区切り、パーセント、小数点)、行列の挿入・幅の調節。
- 15回 スプレッドシート上でのデータ入力、フィルターの使用、データの簡易分析。
- 16回 アプリ間データ共有、Excel 表の Word 差し込み。
- 17回 ビジネス文書について。ビジネス文章作成課題、Word での横書き送付状作成。
- 18回 ビジネス文書作成課題。Word での縦書きお礼状作成。
- 19回 ビジネス文書作成課題。Excel での交通費申請書作成、マップアプリによる経路検索。
- 20回 ビジネス文書作成課題。Excel での有給休暇申請用紙作成。
- 21回 PowerPoint 第0回 基本操作の説明、画像の挿入。フォントの変更。
- 22回 PowerPoint 第1回 プレゼン作成課題の説明、プレゼンデモンストレーション。
- 23回 PowerPoint 第2回 プレゼン作成課題準備その1
- 24回 PowerPoint 第3回 プレゼン作成課題準備その2
- 25回 PowerPoint 第4回 プレゼン作成課題準備その3
- 26回 PowerPoint 第5回 プレゼン作成課題準備その4
- 27回 PowerPoint 第6回 プレゼン作成課題準備その5
- 28回 PowerPoint 第7回 プレゼン発表。
- 29回 PowerPoint 第8回 発表のフィードバック、声と表現法について。
- 30回 PowerPoint 第9回 プレゼン作成課題2の説明、プレゼンデモンストレーション。
- 31回 後期試験についての説明、テスト対策。
- 32回 PowerPoint 第10回 プレゼン作成課題2 準備その1
- 33回 PowerPoint 第11回 プレゼン作成課題2 準備その2
- 34回 PowerPoint 第12回 プレゼン作成課題2 準備その3
- 35回 PowerPoint 第13回 プレゼン作成課題2 準備その4
- 36回 PowerPoint 第14回 プレゼン発表、発表のフィードバック。

## 授業の方法

講義、実演、課題作成

## 教材

よくわかる Word2016 & Excel2016、よくわかる仕事に使える Excel 関数ブック、  
PowerPoint は事前に作成したスライドを使用

## 評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

## 授業外での学習方法

課題作成を行い、自身で作成するスキルを向上。知らない知識や単語を調べる。



じつむけいけん じゆぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

# トレーニング概論・実習Ⅰ

## (授業概要)

犬のトレーニングに必要な基礎知識とトレーニング方法を座学と実習で学ぶ

科目	生命科学科	教員	中村 香織・田村 亜里沙
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	72時間

## 目標

### 1学期

犬の適切な世話の方法と学習方法を学ぶ

### 2学期

人と犬との生活について学ぶ

## 授業計画

- 1回 実習ガイダンス
- 2回 犬との顔合わせ
- 3回 犬とは
- 4回 犬の生得的本能
- 5回 犬の気質と素因
- 6回 脳の働きと行動の関係
- 7回 仔犬の成長過程①
- 8回 仔犬の成長過程②
- 9回 犬の社会的階級について
- 10回 犬のコミュニケーションについて①
- 11回 犬のコミュニケーションについて②
- 12回 前期期末試験（筆記試験・実技試験）
- 13回 前期期末試験（実技試験）
- 14回 前期のまとめ振り返り
- 15回 前期の復習
- 16回 犬との生活①
- 17回 犬との生活②

- 18回 トイレトレーニング
- 19回 ハウストレーニング
- 20回 LEADプログラムとは①
- 21回 LEADプログラムとは②
- 22回 飼い主との関係を築くには①
- 23回 飼い主との関係を築くには②
- 24回 子供と犬の関わり
- 25回 多頭飼育について
- 26回 障害のある犬のトレーニング①
- 27回 障害のあるトレーニング②
- 28回 暴力の連鎖とは
- 29回 犬との生活のまとめ①
- 30回 犬との生活のまとめ②
- 31回 犬との生活のまとめ③
- 32回 後期期末試験（筆記試験・実技試験）
- 33回 後期期末試験（実技試験）
- 34回 1年間のまとめ
- 35回 トレーニングゲーム①
- 36回 トレーニングゲーム②

じゅぎょう ほうほう  
授業の方法

実習と座学

きょうざい  
教材

授業テキスト（配布）

ひょうか ほうほう  
評価の方法

しまつしけん 期末試験80%（筆記試験・実技試験）、じゅぎょうたいど 授業態度・提出物 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

なし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

あり

# ビジネスマナー/HR

## (授業概要)

ビジネスマナーは社会人にとっての基本となります。

例えば目を合わせて挨拶が出来ない、言葉の使い方がおかしい、名刺交換の仕方を知らない、上座がどこか分からないなど、「ビジネスマナーの基本を身につけていない人」をみなさんは信用、信頼ができますか？

この科目では社会人として基本的に必要なビジネスマナーを理解、実践ができるようになる事を目的とし、人間関係や信頼関係を構築できるようになる事とします。

ホームルームとの兼ね合いのため、授業内容を面談や行事の準備に活用する場合がございます。

科	生命科学科	教員	山内
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	×
対象年次	1年	年間単位時間	36

## 目標

### 1 学期

就職活動やインターンシップでの重要となる書類である履歴書とお礼状。

この2つの書き方やマナーを知り、正しく書けるようになる事。

スーツの着方(男性の場合は身だしなみやネクタイの結び方など、女性の場合も身だしなみやアクセサリなど)の間違いと正解を区別できるようになる。

立ち方やお辞儀の仕方などの所作を身につける。

敬語(丁寧、謙譲語、尊敬語)の差別化をして理解し話せるようになる。

現代の最新のビジネスマナーでもあるリモートワークマナーを知る。

席次(上座と下座)、名刺交換の基本を理解し実践ができるようになる。

### 2 学期

電話対応の基本を理解する。

ビジネス文書のシーンに合った使い分けが出来るようになる。

封筒の基本と宛名の書き方に関するマナー理解できるようになる。

冠婚葬祭のマナーを理解できるようになる事。

食事と飲み会に関するビジネスマナーがある事を知り、理解できるようになる。

ビジネスで使われる用語の語句と意味を覚え、理解し使えるようになる。

## 授業計画

### 1 学期

1回 自己紹介(自分の長所、短所、趣味など面接でよく聞かれる項目も入れて発表を行う)

2回 学校でのエレベータの使い方、受付の利用の仕方、校舎見学

3回 履歴書の書き方①(個人情報の書き方について)

- 4回 履歴書の書き方②(志望動機、セールスポイントなどの自己PRの書き方)
- 5回 履歴書の書き方③(資格、好きな科目などの書き方)
- 6回 お礼状の書き方・実践①
- 7回 お礼状の書き方・実践②
- 8回 お礼状の書き方・実践③
- 9回 封筒の書き方・送り方①
- 10回 封筒の書き方・送り方②
- 11回 ビジネス会話の基本①(敬語について)
- 12回 ビジネス会話の基本②(定番の言い回し、クッション言葉)
- 13回 席次①(上座と下座について)
- 14回 席次②(シチュエーション別の席次、実践)
- 15回 会社での挨拶の仕方、立ち方、お辞儀の基本、椅子の座り方、入退室の基本。
- 16回 試験対策(復習課題)
- 17回 試験
- 18回 試験フィードバック

## 2学期

- 19回 電話応対
- 20回 ビジネス文書①(紙文書)
- 21回 ビジネス文書②(メール)
- 22回 ビジネス文書③(FAX)
- 23回 リモートワークマナー
- 24回 名刺交換(名刺交換の基本、同時交換、複数交換)①
- 25回 名刺交換(実践)②
- 26回 履歴書復習
- 27回 求人票の見方
- 28回 ビジネス用語について①(基本編)
- 29回 ビジネス用語について②(求人編)
- 30回 ホウレンソウ、5W3Hについて、人間関係のマナー
- 31回 お礼状復習
- 32回 雇用形態について
- 33回 会社での役職の序列と役割について
- 34回 試験対策(復習課題)
- 35回 試験
- 36回 試験フィードバック

じゅぎょう ほうほう  
授業の方法

講義、問題演習、実践

きょうざい  
教材

プリント配布

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

校内やプライベートでも意識して実践をする。

例えばエレベータにて席次を意識して乗る事。先生やアルバイト先の先輩・店長など常日頃、敬語(丁寧語、尊敬語)を意識して話すなど。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

# 両生爬虫類学 I

## (授業概要)

動物界における両生類と爬虫類の特徴について基礎的なことを学ぶ。多種多様な両生爬虫類の飼育方法については、前例がなく、自ら考案せねばならぬ種も多いので、その考え方についても理解してゆく。

科	生命科学科	教員	大淵
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36時間

## 目標

### 1 学期

主に爬虫類の動物学的特徴について包括的に理解する。

### 2 学期

主に両生類の動物学的特徴について包括的に理解する。

## 授業計画

### 1 学期

- 1回 自己紹介、アイスブレイク、講義について
- 2回 両生爬虫類を含む動物の分類
- 3回 変温、恒温など両生爬虫類の生理について
- 4回 卵の構造
- 5回 両生爬虫類の生態
- 6回 両生爬虫類の生態
- 7回 両生爬虫類の分類学的特徴
- 8回 両生爬虫類の計測、生息環境
- 9回 ワニ目、カメ目について
- 10回 試験対策
- 11回 試験
- 12回 試験フィードバック
- 13回 フィールドにおける両生爬虫類
- 14回 2学期にむけて

### 2 学期

- 15回 1学期の復習など
- 16回 ワニの生態1
- 17回 ワニの生態2

- 18回 心臓のつくり
- 19回 カメの甲羅
- 20回 カメの分類
- 21回 カメの共生生物
- 22回 カメの生態（日本産） 1
- 23回 カメの生態（日本産） 2
- 24回 カメの生態（ウミガメ） 1
- 25回 カメの生態（ウミガメ） 2
- 26回 呼吸について
- 27回 有鱗目 1
- 28回 有鱗目 2
- 29回 有鱗目 3
- 30回 冬期に見られる両生爬虫類（冬休みを前に）
- 31回 これまでの振り返り
- 32回 両生爬虫類の各目について
- 33回 試験対策
- 34回 試験
- 35回 試験フィードバック
- 36回 総括

じゅぎょう ほうほう  
授業の方法

講義、実演、プレゼン、各種動画など

きょうざい  
教材

学研の図鑑 LIVE ポケット「爬虫類・両生類」

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん  
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

上野動物園両生爬虫類館での実務経験ほか。



# 人間形成概論

## (授業概要)

人間関係に関する基礎知識を持ち、基礎的なコミュニケーションスキルを会得することにより、生き物を扱う職務を遂行する社会人として、良好な人間関係を構築できる応用力を修得する。心身ともに健康な生活を送るために必要なヘルスリテラシーを身につける。

科	生命科学科	教員	校長：中野美和子
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36単位

## 目標

### 1 学期

人間の身体と心の関係、人間関係の基本である自己概念について考える。次いで、対人認知に関わる理論と実際を学び、考える。

### 2 学期

基礎的なコミュニケーションの概略を学び、次いで集団での行動、心理について学び、集団の一員として働き方、コーチングを含めた成人教育について学び、考える。

健康についてのリテラシー、生活習慣病の予防について学び、職場でのストレスへの対処力を身につけ、健康で有意義な人生を送る一助とする。

## 授業計画

### 1 学期

- 1回 アイスブレイクを兼ねた講師の自己紹介、人間の身体と心の関係
- 2回 自律神経とストレスの関係、自律神経の整え方
- 3回 自己認識・評価、リフレーミング
- 4回 自分を大事にする、self-compassion
- 5回 自尊感情 (self-esteem)、自己主張 assertive
- 6回 対人感受性、心の理論、
- 7回 印象形成、対人認知とその歪み
- 8～10回 対人認知の歪み：ステレオタイプ、偏見、透明性錯覚、現状維持バイアスなど
- 11回 試験対策、
- 12回 試験、あるいはレポート、
- 13回 試験のフィードバック

### 2 学期

- 14～15回 コミュニケーションの概略、不適切表現
- 16回 内集団、内集団ひいき、集団圧力、同調、傍観者効果
- 17回 集団、集団浅慮、集団心理～群集心理、社会的手抜き

18~19回 リーダーシップ、チームで仕事をするについて  
20~22回 成人教育、コーチングとフォローアップ  
23回 ヘルスリテラシー、日本人の寿命と主な死因の現況、日本の健康政策  
24~28回 生活習慣病の概要とその予防：がん、循環器疾患・高血圧、糖尿病・脂質異常、COPD  
29回 飲酒、依存症、歯科疾患の概況と予防、  
30~31回 睡眠、疲労、メンタルヘルス  
32回 試験対策、  
33回 試験、レポート、  
34回 試験、レポートのフィードバック  
35~36回 感情処理、ストレス、ストレス対処

じゅぎょう ほうほう  
授業の方法

講義、問題についてのレポートと討論、グループワーク

きょうざい  
教材

適切な教科書がないため、試験対策時に講義内容をまとめたプリントを配布する。

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん 期末試験・レポート提出 90%、じゅぎょうたいど 授業態度10%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

自分自身の経験を考察するレポートを書く。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

あり

# 公衆衛生 I

## (授業概要)

本来はヒトの健康維持・増進を目的とする学問だが、疾患や環境問題の要因には動物との接触に起因するものも多数存在する。そこで、動物を扱うものとして共生社会を追究すべく、広く公衆衛生に関する知識を習得し、動物に関わる仕事全般に役立てる。

か 科	生命科学科	きょういん 教員	花木
コース	スモールアニマルコース	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしやうねんじ 対象年次	1年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	36

## もくひやう 目標

### 1 学期

人獣共通感染症について学び、説明できるようになる。

### 2 学期

寄生虫疾患と食中毒について学び、説明できるようになる。

## じゆぎくうけいかく 授業計画

### 1 学期

- 1回 公衆衛生学を知る(1)
- 2回 公衆衛生学を知る(1)、公衆衛生の捉え方(1)
- 3回 公衆衛生の捉え方(2)
- 4回 人獣共通感染症学総論(感染、疫学、予防)
- 5回 人獣共通感染症学各論(細菌性疾患)(1)
- 6回 人獣共通感染症学各論(細菌性疾患)(2)
- 7回 人獣共通感染症学各論(細菌性疾患)(3)
- 8回 人獣共通感染症学各論(細菌性疾患)(4)
- 9回 人獣共通感染症学各論(細菌性疾患)(5)
- 10回 人獣共通感染症学各論(リケッチア性疾患)(6)
- 11回 人獣共通感染症学各論(リケッチア性疾患、ウイルス性疾患)(7)
- 12回 試験
- 13回 試験返却
- 14回 人獣共通感染症学各論(ウイルス性疾患)(8)

### 2 学期

- 15回 人獣共通感染症学各論(ウイルス性疾患)(9)
- 16回 人獣共通感染症学各論(ウイルス性疾患)(10)

- 17回 人獣共通感染症学各論(ウイルス性疾患)(11)
- 18回 人獣共通感染症学各論(ウイルス性疾患)(12)
- 19回 人獣共通感染症学各論(ウイルス性疾患)(13)
- 20回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(14)
- 21回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(15)
- 22回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(16)
- 23回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(17)
- 24回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(18)
- 25回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(19)
- 26回 人獣共通感染症学各論(寄生虫性疾患)(20)
- 27回 食品衛生学総論
- 28回 食品衛生学各論(食中毒)(1)
- 29回 食品衛生学各論(食中毒)(2)
- 30回 食品衛生学各論(食中毒)(3)
- 31回 試験
- 32回 試験返却
- 33回 食品衛生学各論(食中毒)(4)
- 34回 食品衛生学各論(食中毒)(5)
- 35回 食品衛生学各論(食中毒)(6)
- 36回 総復習

じゅぎょう ほうほう  
授業の方法

座学

きょうざい  
教材

自作プリント

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん  
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

ノートを纏めなおし、授業前に教員に提示する

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

あり

# 動物生態学 I

## (授業概要)

動物園の飼育者は、飼育対象の動物以外に餌生物や飼育環境下に生息する多くの動物の知識が求められる。生物の生存するために必要な行動は、種は違えども多くの種で共通する。本講義では昆虫からほ乳類、植物など幅広く紹介しながら、動物の生態を解説する。

科	生命科学科	教員	佐崎
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	36時間

## 目標

### 1学期

- ・地球上に生息する生物の形態学的、生態学的、生理学的特徴を理解する

### 2学期

- ・生物と環境、生物と生物同士の関係について理解
- ・自然環境下での生態を理解したうえで、ペットを含めた飼育動物の生態を理解する
- ・一部の学生が2年次に動物園コースに転コースをしても、授業についていけるようにする

## 授業計画

### 1学期

- 1回 動物生態学とは、生物の名前（和名、英名、地方名、学名）
- 2回 生物の分類①（分類の方法、階級、種、）
- 3回 生物の系統①（原核生物、原生生物とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 4回 生物の系統②（菌界、植物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 5回 生物の系統③（植物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 6回 生物の系統④（動物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 7回 生物の系統⑤（動物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 8回 生物の系統⑥（動物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 9回 西表研修旅行（現地で講義及び体験実習）
- 10回 西表出張（課題対応）
- 11回 生物の系統⑦（動物界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）

12回 生態系とは（バイオスフィア実験からみる生態系）

13回 前期試験

14回 前期試験の振り返り

15回 生物群集とは（食物連鎖、食物網）

**夏休み中（2022年度は8/13～9/30）に生物分類技能検定4級を受験**

## 2学期

16回 生物と環境①（作用：グロージャーの法則）

17回 生物と環境②（作用：ベルクマンの法則）

18回 生物と環境③（作用：アレンの法則）

19回 生物と環境④（気温と生物の関係～動物～）

20回 生物と環境⑤（気温と生物の関係～ヒト～）

21回 生物と環境⑥（適応放散、収斂進化）

22回 生物と環境③（反作用）

23回 生物と環境④（相互作用：種内競争、種間競争、植物）

24回 生物と環境⑤（相互作用：植物、動物、干渉作用）

25回 生物と環境⑥（相互作用：動物、なわばりと行動圏）

26回 生物と環境⑦（相互作用：動物、なわばりと行動圏）

27回 本試験テスト対策①（過去問の振り返り、確認）

28回 本試験テスト対策②（過去問の振り返り、確認）

29回 本試験の解答と解説

30回 擬態と擬装について（種内競争：眼状紋、制服擬態）

31回 擬態と擬装について（偽物型擬態、攻撃擬態）

32回 擬態と擬装について（猛毒型擬態）

33回 後期試験

34回 後期試験の振り返り

35回 異種間との関係（共生：相利共生、片利共生、片害）

36回 異種間との関係（中立、寄生）、生態系における異種間との種間関係の意義

じゆぎょう ほうほう  
授業の方法

具体例を用いて講義する

きょうざい  
教材

生物図表、授業内で配布するプリント

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん  
期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

授業だけではなく、身近な自然、生物に関心を持って観察する

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

生物分類技能検定をもっている

# 動物解剖生理学 I

## (授業概要)

身体各部分の形態や機能を詳しく学ぶことで、身体の恒常性(ホメオスタシス)について理解し、動物の管理に関わる仕事に必要な知識を身につける。

科	生命科学科	教員	森
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	36

## 目標

### 1 学期

身体を形成する各系統や重要諸臓器の機能と形態に関し、主要な性状及び特質を十分に理解認識し、説明できるようになる。

### 2 学期

同上

## 授業計画

### 1 学期

- 1回 ガイダンス
- 2回 神経系(脳、脊髄、神経)(1)
- 3回 神経系(脳、脊髄、神経)(2)
- 4回 神経系(脳、脊髄、神経)(3)
- 5回 感覚器系(眼、耳、鼻、舌)(1)
- 6回 感覚器系(眼、耳、鼻、舌)(2)
- 7回 感覚器系(眼、耳、鼻、舌)(3)
- 8回 内分泌系(ホルモン)(1)
- 9回 内分泌系(ホルモン)(2)
- 10回 内分泌系(ホルモン)(3)
- 11回 試験免疫系



- 12回 試験返却  
13回 (リンパ系、免疫細胞)(2)  
14回 免疫系(リンパ系、免疫細胞)(3)

## 2学期

- 15回 呼吸器系(咽喉頭、気管、肺)(1)  
16回 呼吸器系(咽喉頭、気管、肺)(2)  
17回 循環器系(心臓、血管)(1)  
18回 循環器系(心臓、血管)(2)  
19回 循環器系(心臓、血管)(3)  
20回 肝臓(1)  
21回 肝臓(2)  
22回 膵臓(1)  
23回 膵臓(2)  
24回 消化器系(胃、腸)(1)  
25回 消化器系(胃、腸)(2)  
26回 消化器系(胃、腸)(3)  
27回 泌尿器系(腎臓、膀胱)(1)  
28回 泌尿器系(腎臓、膀胱)(2)  
29回 生殖器系(卵巣、子宮、精巣)(1)  
30回 生殖器系(卵巣、子宮、精巣)(2)  
31回 試験生殖器系  
32回 試験返却  
33回 (卵巣、子宮、精巣)(3)  
34回 骨格系(骨、筋肉、皮膚)(1)  
35回 骨格系(骨、筋肉、皮膚)(2)  
36回 まとめ

じゆぎょう ほうほう  
授業の方法

座学

きょうざい  
教材

自作テキスト

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん  
期末試験80%、出席率 20%

授業外での学習方法

ノートを纏めなおし、授業前に教員に提示する

実務経験と授業科目の関係

獣医

# 動物関連法規学 I

## (授業概要)

動物を扱う仕事（トリマー、ペットショップ、動物看護師）を行う上で必要となる動物に関する法律を身につける。

科	生命科学科	教員	井田 竜馬
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36

## 目標

### 1 学期

法律の仕組み、狂犬病予防法などを理解し説明できるようになる。

### 2 学期

動物愛護法などを理解し説明できるようになる。

## 授業計画

### 1 学期

- 1回 授業概要説明
- 2回 法律の仕組み
- 3回 狂犬病予防法（1）狂犬病の特徴
- 4回 狂犬病予防法（2）狂犬病の特徴
- 5回 狂犬病予防法（3）狂犬病予防法の概要（施行年、目的など）
- 6回 狂犬病予防法（4）対象動物、輸入禁止動物
- 7回 狂犬病予防法（5）飼い主などの義務（畜犬登録など）
- 8回 狂犬病予防法（6）飼い主などの義務（罰則など）
- 9回 動物が亡くなった後に注意すべき事柄（1）（化製場法、廃棄物処理法など）
- 10回 動物が亡くなった後に注意すべき事柄（2）（墓地埋葬法など）
- 11回 動物が亡くなった後に注意すべき事柄（3）（墓地埋葬法など）
- 12回 前期試験
- 13回 前期試験返却・解説
- 14回 ペットフード安全法（1）法の成立の背景
- 15回 ペットフード安全法（2）ペットフードの定義
- 16回 ペットフード安全法（3）製造者などの義務
- 17回 ペットフード安全法（4）成分・表示義務

### 2 学期

- 18回 前期振り返り

- 19回 動物愛護法（1）法の制定の背景・経緯
- 20回 動物愛護法（2）法の制定の背景・経緯
- 21回 動物愛護法（3）目的、基本原則
- 22回 動物愛護法（4）飼い主の責務
- 23回 動物愛護法（5）飼い主の責務
- 24回 動物愛護法（6）動物虐待（愛護動物）
- 25回 動物愛護法（7）動物虐待（罰則）
- 26回 動物愛護法（8）動物虐待（虐待の定義）
- 27回 後期試験
- 28回 後期試験返却・解説
- 29回 動物愛護法（9）動物取扱業（定義・業種）
- 30回 動物愛護法（10）動物取扱業（第一種動物取扱業者の義務）
- 31回 動物愛護法（11）動物取扱業（第一種動物取扱業者の義務）
- 32回 動物愛護法（12）動物取扱業（第一種動物取扱業者の義務）
- 33回 動物愛護法（13）動物取扱業（第二種動物取扱業）
- 34回 動物愛護法（14）特定動物
- 35回 動物愛護法（15）自治体の役割、マイクロチップ装着
- 36回 1年総復習

じゅぎょう ほうほう  
授業の方法

講義

きょうざい  
教材

なし

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん 80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

1回1回の授業ノートやプリントに関しポイントをまとめ直し、随時チェックする。

じつむけいけん 実務経験と じゅぎょうかもく 授業科目の かんけい 関係

あり

# 基礎健康管理学Ⅰ

## (授業概要)

動物と関わる上で日常的な健康管理や予防について学び、実践できるようにする

か 科	生命科学科	きょういん 教員	田中
コース	スモールアニマルコース	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	1年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	36

## もくひょう 目標

### 1 学期

犬や猫の日常的な健康管理と予防について学び、正常時と異常時の違いを理解し、異常時に早く気付くことができる

### 2 学期

1学期に引き続き健康学と予防について学ぶ。またそれらを基礎とし、様々な疾患について理解する。

## じゆぎょうけいかく 授業計画

### 1 学期

- 1回 授業について
- 2回 散歩・運動について
- 3回 排泄、排尿について
- 4回 全身のお手入れ、各疾患について①
- 5回 全身のお手入れ、各疾患について②
- 6回 全身のお手入れ、各疾患について③
- 7回 口腔衛生について①
- 8回 口腔衛生について②
- 9回 口腔衛生について③
- 10回 熱中症について①

- 11回 前期復習
- 12回 前期試験
- 13回 試験返却
- 14回 熱中症について②
- 15回 犬の登録について
  
- 16回 ワクチンで予防できる病気（犬）
- 17回 ワクチンで予防できる病気（猫）
- 18回 避妊、去勢について①
- 19回 避妊、去勢について②
- 20回 犬糸状虫症の予防について
- 21回 外部寄生虫について①
- 22回 外部寄生虫について②
- 23回 外部寄生虫について③
- 24回 腸内寄生虫について①
- 25回 腸内寄生虫について②
- 26回 腸内寄生虫について③
- 27回 腸内寄生虫について④
- 28回 犬種によって多く見られる疾患について①
- 29回 犬種によって多く見られる疾患について②
- 30回 猫種によって多く見られる疾患について①
- 31回 猫種によって多く見られる疾患について②
- 32回 中毒について①
- 33回 中毒について②
- 34回 後期復習
- 35回 後期試験
- 36回 試験返却

授業の方法

講義、グループワーク

教材

プリント、教科書（コンパニオンアニマルの健康管理学）

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

授業用のプリントと教科書を各自見直し、纏める。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

あり

# 基礎生物学

## (授業概要)

高校の生物の復習を基本に、身近な生物や人体について、より深く実感を持って理解する。

科	生命科学科	教員	黒川 花
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	×
対象年次	1年	年間単位時間	36

## 目標

1 学期…細胞と遺伝の法則等について理解する。

2 学期…主な臓器、免疫の仕組み、生命の変遷、生物学の基本について学ぶ。

## 授業計画

### 1 学期

- 1回 細胞の構造(1)
- 2回 細胞の構造(2)
- 3回 生体を構成する物質
- 4回 タンパク質、酵素
- 5回 遺伝子とゲノム
- 6回 遺伝、メンデルの法則(1)
- 7回 遺伝、メンデルの法則(2)
- 8回 いろいろな遺伝
- 9回 ヒトと遺伝
- 10回 恒常性、体液、循環系
- 11回 肝臓
- 12回 前期試験
- 13回 前期試験返却、答合わせ
- 14回 動物の組織と器官

### 2 学期

- 15回 復習
- 16回 腎臓
- 17回 消化器系
- 18回 神経と感覚
- 19回 自律神経
- 20回 ホルモン
- 21回 生体防御(1)



22回 生体防御(2)免疫と疾病

23回 小テスト

24回 46億年(1)

25回 46億年(2)

26回 自習

27回 進化と形態

28回 分類

29回 学名

30回 系統樹。ドメイン

31回 原核生物界、原生生物界

32回 植物界。菌界

33回 動物界

34回 後期試験

35回 後期試験返却、答合わせ

36回 総復習

授業じゅぎょうの方法ほうほう

教材と印刷物配布

教材きょうざい

浜島書店『生物図表』

評価ひょうかの方法ほうほう

期末試験きまつしけん、80%、授業態度じゅぎょうたいど20%

授業外じゅぎょうがいでの学習方法がくしゅうほうほう

特になし。

実務経験じつむけいけんと授業科目じゅぎょうかもくの関係かんけい

# 家畜学 I

## (授業概要)

人間生活を支えている家畜の役割と動向、家畜の生理生態、飼料の生産と利用を学ぶ

科	生命科学科	教員	金田
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年次	年間単位時間	36

## 目標

### 1 学期

家畜動物とはどのように人とつながっているのか、社会的役割はどのようになっているのかを理解する。  
家畜動物であるウシおよびブタについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解する。

### 2 学期

家畜動物であるブタおよびウマ、ニワトリについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解する。

## 授業計画

### 前期

- 1回 家畜動物の定義
- 2回 ウシの概要について①
- 3回 ウシの概要について②、ウシの体の構造について①
- 4回 ウシの体の構造について②
- 5回 ウシの体の構造について③
- 6回 ウシの品種について、ウシの飼育について①
- 7回 ウシの飼育について②
- 8回 ウシの飼育について③
- 9回 ウシの疾患について①
- 10回 ウシの疾病について②
- 11回 ブタの概要について①
- 12回 ブタの体の構造について①
- 13回 前期試験
- 14回 前期試験返却・解答
- 15回 ブタの体の構造について②

## 後期

- 16回 ブタの品種について、ブタの飼育について①
- 17回 ブタの飼育について②
- 18回 ブタの飼育について③
- 19回 ブタの疾病について①
- 20回 ブタの疾病について②
- 21回 ウマの概要について
- 22回 ウマの体の構造について①
- 23回 ウマの体の構造について②
- 24回 ウマの品種について①
- 25回 ウマの品種について②、ウマの飼育について①
- 26回 ウマの飼育について②
- 27回 ウマの飼育について③
- 28回 ウマの疾病について①
- 29回 ウマの疾病について②
- 30回 ニワトリの概要について①
- 31回 ニワトリの品種について①、ニワトリの体の構造について①
- 32回 ニワトリの体の構造について②
- 33回 ニワトリの飼育について①
- 34回 ニワトリの疾病について①
- 35回 後期試験
- 36回 後期試験返却・解答

## 授業の方法

講義

## 教材

家畜動物の基礎（教科書）、自作プリント

## 評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

## 授業外での学習方法

あり

じつむけいけん じゆぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

あり

# 栄養学 I

## (授業概要)

五大栄養素の基礎的な知識、犬猫に必要な栄養素、エネルギー要求量、ライフステージ毎の栄養管理、ペットフードの基本的知識、様々な疾患時の療養食の特性など、動物の状態に適合した食事管理についての知識を身に着ける。

科	生命科学科	教員	橋本
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36

## 目標

### 1 学期

動物にとって適切なエネルギー量がどのようにして決定されるのかを知るとともに、動物に与える食事の内容を理解する。また、エネルギー要求に付随する栄養素の評価法や、要求量の計算方法を身に着ける。

### 2 学期

肥満、腎疾患を中心とした、各種疾患に対するフードの選択を理解するとともに、それぞれの疾患に対する、手作り食の作り方を学ぶ。

## 授業計画

### 1 学期

- 1回 自己紹介、ガイダンス・栄養学とは
- 2回 五大栄養素
- 3回 栄養要求の種差
- 4回 食性、嗜好性、摂食行動
- 5回 禁忌食
- 6回 犬と猫のエネルギー評価法 I
- 7回 犬と猫のエネルギー評価法 II
- 8回 犬と猫のライフステージと栄養
- 9回 犬と猫の栄養状態評価法
- 10回 前期試験対策
- 11回 前期試験
- 12回 前期試験の解答・解説
- 13回 ペットフードの種類

### 2 学期

- 14回 ペットフードに使用される原料
- 15回 サプリメント
- 16回 栄養診断

- 17回 適性給与量
- 18回 フードの選択・手作り食
- 19回 療養食：肥満
- 20回 療養食：慢性腎臓病・尿石症Ⅰ
- 21回 療養食：慢性腎臓病・尿石症Ⅱ
- 22回 療養食：慢性腎臓病・尿石症Ⅲ
- 23回 療養食：慢性腎臓病・尿石症Ⅳ
- 24回 療養食：心血管系
- 25回 療養食：消化器系
- 26回 療養食：肝疾患Ⅰ
- 27回 療養食：肝疾患Ⅱ
- 28回 療養食：糖尿病
- 29回 療養食：皮膚・アレルギー疾患Ⅰ
- 30回 療養食：皮膚・アレルギー疾患Ⅱ
- 31回 強制給餌Ⅰ
- 32回 強制給餌Ⅱ
- 33回 後期試験対策
- 34回 後期試験
- 35回 後期試験の解答・解説
- 36回 総復習

授業の方法

講義、問題演習

教材

認定動物看護師コアカリキュラム 2019 準拠 臨床動物看護学②（動物臨床栄養学）、臨床栄養指導 認定動物看護師 試験教本 動物栄養学、犬と猫の栄養学

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

栄養学で得た知識を基に、自身のペットのフードの内容を確認する。

実務経験と授業科目の関係

あり

# 生体管理概論実習(水槽)

## (授業概要)

熱帯魚を中心とした基本的な熱帯魚の種類、飼育知識を学ぶ。

また、班ごとによる熱帯魚飼育において、飼育技術の習得だけでなく、協調性、責任能力を身に付ける。

科	生命科学科	教員	山内
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36

## 目標

### 1 学期

水槽の立ち上げについて理解をする。

また熱帯魚の種類や生態的特徴を理解したうえで、熱帯魚の飼育方法を身に付ける

### 2 学期

熱帯魚を混泳する際の注意ポイントを理解し、病魚などが発生した際の治療方法及び予防方法を理解できるようにする。

## 授業計画

### 1 学期

- 1回 熱帯魚について①A
- 2回 熱帯魚について①B
- 3回 熱帯魚について②A
- 4回 熱帯魚について②B
- 5回 水槽飼育における基本的な用品 A
- 6回 水槽飼育における基本的な用品 B
- 7回 水槽の立ち上げについて A
- 8回 水槽の立ち上げについて B
- 9回 水合わせと温度合わせ A
- 10回 水合わせと温度合わせ B
- 11回 試験
- 12回 試験フィードバック A
- 13回 試験フィードバック B

### 2 学期

- 14回 魚の混泳について①A
- 15回 魚の混泳について①B
- 16回 水質と魚の状態関係 A

- 17回 水質と魚の状態関係 B
- 18回 水替えとコケ取りについて A
- 19回 水替えとコケ取りについて B
- 20回 熱帯魚の病気について①A
- 21回 熱帯魚の病気について①B
- 22回 熱帯魚の病気について②A
- 23回 熱帯魚の病気について②B
- 24回 魚の病気と対処方法①A
- 25回 魚の病気と対処方法①B
- 26回 魚の病気と対処方法②A
- 27回 魚の病気と対処方法②B
- 28回 塩水浴について A
- 29回 塩水浴について B
- 30回 温度の重要性について A
- 31回 試験
- 32回 試験フィードバック B
- 33回 試験フィードバック A
- 34回 温度の重要性について B
- 35回 水槽レイアウトについて A
- 36回 水槽レイアウトについて B

じゅぎょう ほうほう  
授業の方法

講義、実演、実習

きょうざい  
教材

なし

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん 80%、じゅぎょうたいど 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

担当水槽におけるの通常メンテナンス

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

あり



# 生体管理概論実習 陸

## (授業概要)

動物を扱う仕事（ペットショップ、動物看護師、動物保護スタッフ、動物園スタッフ）をする上で必要な動物飼育方法を身につけるために、飼育棟にて小動物のハンドリング方法や健康チェック方法、動物のケージの掃除等を実際にやりながら学び、習得する

科	生命科学科	教員	橋本 金田
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36時間

## 目標

### 1学期

飼育棟の使い方や動物の特徴、飼育管理方法について学び、1つ1つの作業の必要性を理解した上で2時間以内に作業を終わらせる

### 2学期

グループ内でその日の目標と反省を行いながら作業をすすめ、自分の頭で考えながら飼育管理を行う

## 授業計画

### 1学期

- 1回 生体管理とは/チーム分け/
- 2回 飼育棟の使い方/消毒について
- 3回 飼育棟動物を知ろう/掃除の仕方
- 4回 飼育棟実習 A
- 5回 飼育棟実習 B
- 6回 飼育棟実習 A
- 7回 飼育棟実習 B
- 8回 飼育棟実習 A
- 9回 飼育棟実習 B
- 10回 飼育棟実習 A
- 11回 前期試験
- 12回 前期試験返却
- 13回 飼育棟実習 B
- 14回 飼育棟実習 A

### 2学期

- 15回 飼育棟実習 B
- 16回 飼育棟実習 A
- 17回 飼育棟実習 B

- 18回 飼育棟実習 A
- 19回 飼育棟実習 B
- 20回 飼育棟実習 A
- 21回 飼育棟実習 B
- 22回 飼育棟実習 A
- 23回 飼育棟実習 B
- 24回 飼育棟実習 A
- 25回 飼育棟実習 B
- 26回 飼育棟実習 A
- 27回 飼育棟実習 B
- 28回 飼育棟実習 A
- 29回 飼育棟実習 B
- 30回 飼育棟実習 A
- 31回 飼育棟実習 B
- 32回 飼育棟実習 A
- 33回 飼育棟実習 B
- 34回 後期試験
- 35回 後期試験返却
- 36回 総復習

じゆぎょう ほうほう  
授業の方法

実習、講義

きょうざい  
教材

なし

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゆぎょうたいど 授業態度20%

じゆぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

小動物のハンドリングや健康チェックを実践する

じつむけいけん 実務経験と じゆぎょうかもく 授業科目の かんけい 関係

あり

# 動物看護基礎実習

## (授業概要)

動物と関わる上で日常的な健康管理や予防について学び、実践できるようにする

科	生命科学科	教員	田中
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36

## 目標

### 1 学期

動物に負担がかからないような基本的な保定ができるようにする。またバイタルサインを理解し、いち早く動物の異常に気付くことができる。

### 2 学期

ワクチン、フィラリア予防、ノミダニ予防について理解し、説明できるようにする。  
また基本的な健康管理だけでなく、エキゾチックの健康管理、保定もできるようにする。

## 授業計画

- 1回 自己紹介、授業について、実習室での注意点
- 2回 動物への接し方、保定について
- 3回 犬の保定（立位、犬座）
- 4回 犬の保定（伏臥位、横臥位）
- 5回 猫の保定
- 6回 実習（犬の保定）
- 7回 バイタルサイン（体重、体温）
- 8回 バイタルサイン（脈拍、呼吸、CRT）
- 9回 バイタルサインの注意点
- 10回 実習（猫の保定）
- 11回 前期復習

- 12回 前期試験
- 13回 試験返却
- 14回 健康チェック①
- 15回 健康チェック②
  
- 16回 健康チェック③
- 17回 実習（バイタルサイン、健康チェック）
- 18回 フィラリア予防①
- 19回 フィラリア予防②
- 20回 ノミダニ予防①
- 21回 ノミダニ予防②
- 22回 狂犬病、混合ワクチン
- 23回 混合ワクチンで防げる病気（犬）
- 24回 混合ワクチンで防げる病気（猫）
- 25回 避妊手術、去勢手術について
- 26回 避妊手術で予防できる病気①
- 27回 去勢手術で予防できる病気②
- 28回 肥満の予防①
- 29回 肥満の予防②
- 30回 エキゾチック①
- 31回 エキゾチック②
- 32回 エキゾチック③
- 33回 エキゾチック④
- 34回 後期復習
- 35回 後期試験
- 36回 試験返却

じゅぎょう ほうほう  
授業の方法

講義、実習

きょうざい  
教材

プリント

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

授業用プリントを各自纏めなおす。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

あり

# 資格対策

## (授業概要、目的)

サービス接遇検定 3 級及び、愛玩動物飼養管理士 2 級の試験合格を目的とする。

試験に合格し資格を取得することで就職活動や就職後の業務に活用できる。

サービス接遇検定に関しては問題集と試験対策の資料を使いサービス接遇の基本的な知識や正しい接客マナーの所作などを勉強する。

愛玩動物飼養管理士については教本 2 冊、スクーリング、課題報告問題を使いながらペット動物の飼養について正しい知識を身にける。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	DOG、SML、TEP、VN1	教員の実務経験	×
対象年次	1 年	年間単位時間	36

## 目標

### 1 学期

- ・ 基本的なサービス(相手に満足を提供すること)を身につけるために必要な知識と技能を身につける。
- ・ 教本(過去問題集)を使いながら相手が快適と感じる行動や、相手が感じの良いと思うような言葉遣いを正しく判断し選択することができるようになる。
- ・ サービス接遇検定 3 級検定試験への合格を最終目標とする。(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの理論問題が 60%以上、Ⅳ、Ⅴの実技問題も 60%以上の正答率で合格)

### 2 学期

愛玩動物飼養管理士 2 級取得を目指す。

過去問題及び課題問題を中心に解いていく。

課題報告問題の 8 割正答を目指す。

## 授業計画

### 1 学期 サービス接遇検定

- 1 回 オリエンテーション(受験申込書記入、試験概要)
- 2 回 サービススタッフの資質について
- 3 回 専門知識
- 4 回 一般知識
- 5 回 対人技能
- 7 回 実務技能
- 8 回 復習(2 回～5 回)

- 9回 模擬試験
- 10回 試験前各自復習
- 11回 資格試験の実施
- 12回 合否発表・配布物
- 13回 資格試験の解答・解説
- 14回 サービス接遇検定2級・準1級について
- 15回 期末試験対策(復習)
- 16回 期末試験対策(復習)
- 17回 期末試験の実施
- 18回 試験返却、解説

## 2学期 愛玩動物飼養管理士

- 19回 オリエンテーション(受験申込書記入、試験概要)
- 20回 愛玩動物飼養管理士について
- 21回 人と動物の関係学
- 22回 スクーリング
- 23回 動物関係法令
- 24回 ペット業界の現状と広がり
- 25回 課題報告問題
- 26回 動物の体の仕組みと働き
- 27回 各動物の飼養管理
- 28回 動物のしつけ
- 29回 復習
- 30回 資格試験の実施
- 31回 合否発表
- 32回 試験対策
- 33回 試験対策
- 34回 試験対策
- 35回 期末試験の実施
- 36回 試験返却 解説

### 授業の方法

過去問題集の実践、課題資料の配布、スクーリング、課題報告問題

### 教材

サービス接遇検定実問題集(3級) 愛玩動物飼養管理士2級教本

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん じゅぎょうたいど  
期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

過去問題の復習を行い間違った問題に関しては繰り返して解き完全回答を目指す。

校内図書室にも過去問題集の設置あり。

じつむけいけん じゅぎょうかちく かんけい  
実務経験と授業科目の関係



# 陸上実習

(授業概要) 様々な運動競技を通して、校外実習や就職時の際に必要な基礎体力の維持・向上を図る。  
また、チーム戦を通じて個々の協調性、積極性、自主性も高める。

科	生命科学科	教員	高橋 萌夢
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	×
対象年次	1年	年間単位時間	36

## 目標

### 1 学期

- ・ 点呼(時間厳守)→ラジオ体操→外周の流れを理解し自主的に動けるようになる。
- ・ 安全に基礎体力を身につける。
- ・ 自己管理ができるようになる。

### 2 学期

- ・ スポーツ大会での目標を全員一致させそれに向けて動くことができる。
- ・ 安全に基礎体力を身につける。

## 授業計画

- 1回 自己紹介 ラジオ体操・外周ランニングオリエンテーション
- 2回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 3回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 4回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 5回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 6回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 7回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 8回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 9回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 10回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 11回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 12回 前期期末試験(筆記) 実施
- 13回 前期期末試験(筆記) 返却
- 14回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 15回 外周ラン ラジオ体操 競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
- 16回 外周ラン ラジオ体操 スポーツ大会練習
- 17回 外周ラン ラジオ体操 スポーツ大会練習

18回	外周ラン	ラジオ体操	スポーツ大会練習
19回	外周ラン	ラジオ体操	スポーツ大会練習
20回	外周ラン	ラジオ体操	スポーツ大会練習
21回	外周ラン	ラジオ体操	スポーツ大会練習
22回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
23回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
24回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
25回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
26回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
27回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
28回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
29回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
30回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
31回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
32回	後期期末試験(筆記) 実施		
33回	後期期末試験(筆記) 返却		
34回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
35回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)
36回	外周ラン	ラジオ体操	競技(バスケットボール、バドミントン、バレーボール等)

<small>じゅぎょう ほうほう</small> 授業の方法
実習

<small>きょうざい</small> 教材
なし

<small>ひょうか ほうほう</small> 評価の方法
<small>しまつしけん</small> 期末試験80%、 <small>じゅぎょうたいど</small> 授業態度20%

<small>じゅぎょうがい がくしゅうほうほう</small> 授業外での学習方法
自宅でのストレス及び筋力トレーニング
<small>じつむけいけん</small> 実務経験と <small>じゅぎょうかもく</small> 授業科目の <small>かんけい</small> 関係
なし

# 飼育用品概論 I

## (授業概要)

ペットショップ・アニマルカフェなどの施設において生体管理をする上で使用する機材また道具の基本的な使用方法を学習する。また、メーカーごとの特徴や用品のアレンジ方法なども理解する。

科	生命科学科	教員	山内
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位時間	36

## 目標

### 1 学期

ペットショップで取り扱われていることが多い小動物の飼育方法や機材の使用方法を理解し、校内の生体管理において実践できるようにする。

### 2 学期

生体ごとの望ましいレイアウト方法を理解し、メーカーごとの特徴を理解する。

## 授業計画

### 1 学期

- 1回 アイスブレイク
- 2回 小動物とはどんな生き物か（草食性）
- 3回 小動物とはどんな生き物か（肉食・雑食性）
- 4回 用品解説：ケージ①
- 5回 用品解説：ケージ②
- 6回 用品解説：隠れ家、寝床
- 7回 用品解説：トイレ
- 8回 用品解説：サークル、運動器具
- 9回 用品解説：遊び道具①
- 10回 用品解説：遊び道具②
- 11回 用品解説：床材
- 12回 試験対策
- 13回 前期試験
- 14回 試験返却

### 2 学期

- 15回 用品解説：保冷器具
- 16回 用品解説：保温器具
- 17回 用品解説：メンテナンス用品①

- 18回 用品解説：メンテナンス用品②
- 19回 用品解説：給水器、餌皿
- 20回 用品解説：牧草
- 21回 用品解説：フード（草食性）
- 22回 用品解説：フード（肉食・雑食性）
- 23回 用品解説：おやつ
- 24回 用品解説：副食①
- 25回 用品解説：副食②
- 26回 小動物の販売形態について
- 27回 系統とカラーについて①
- 28回 系統とカラーについて②
- 29回 系統とカラーについて③
- 30回 ペット保険について
- 31回 小動物の病気と診察
- 32回 ペット業界が抱える課題点
- 33回 試験対策
- 34回 後期試験
- 35回 試験返却
- 36回 授業振り返り

じゅぎょう ほうほう  
授業の方法

座学

きょうざい  
教材

ひょうか ほうほう  
評価の方法

きまつしけん 80%、じゅぎょうたいど 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう  
授業外での学習方法

生体管理実習での生体管理

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい  
実務経験と授業科目の関係

ペットショップでのアクア・小動物コーナー担当経験あり